

ものづくりの技能承継の展望を学ぶ 高崎機械工業(協)

9月16日、高崎市・組合事務所において、「最先端のものづくりについて～ものづくり技能承継の現状と展望～」をテーマに講習会を開催した。なお、本講習会はオンライン配信を行い、来場型とオンライン型を組み合わせたハイブリッド形式で実施した。

講師は、国立研究開発法人理化学研究所・大森素形材工学研究室の大森整氏。同研究室は、素材に機能と形状を付与する“ものづくり”の革新的な加工技術の研究を行っている。



技能承継の説明を行う大森氏

大森氏は、2050年に日本は65歳以上の人口が約4割を占める超高齢化社会を迎えることにより、製造現場では高齢の熟練技能者が主力となると見込まれる。高齢化によって引き起こされる技術力の低下は、国際競争に負ける可能性を高めると警鐘を鳴らした。OJTによる技能承継には限界があることから、機械をその受け手にするほか

ないに対応策を説明した。

しかし、人が培った経験・ノウハウ・勘といった部分を機械へ承継することは困難を極めるため、熟練技能者のノウハウ等を可視化・分析して蓄積することが必須であると技能抽出の取り組み方を示した。

この技能抽出を可能なところから実施することで、超高齢化や人口減少といった将来的な問題に対応でき、製造業の未来は開かれると力説した。

先進組合事例集への掲載に向けて 館林金属工業団地(協)

9月28日、館林市・組合事務所において、全国中小企業団体中央会が実施している「組合資料収集加工事業」におけるヒアリングに応じた。

本事業は、組合などが新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考となるよう、全国中央会が先進事例を集め報告書にまとめているもの。

今回のヒアリングでは、専門家として中小企業診断士の小林広之氏が、組合が策定した連携事業継続力強化計画の取組み等について、組合顧問の多田征訓氏、事務局の川島規恵氏より聞き取りを行った。



ヒアリングの様子



今回のヒアリングの目的のひとつである
組合事務所の一室を改装し開設した
「ものづくりミュージアム」